

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 木曜日・3校時	必修選択 選択	単位数 2単位
授業科目/(英語名)	生体の構造(英語で読む分子生物学) Structural and Molecular Biology (Molecular Biology Course: from Nobel award lectures)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室 302番教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 松山俊文 /Eメールアドレス: tosim@net.nagasaki-u.ac.jp /研究室:医学部基礎研究棟 5階 504号室 /TEL: 819-7079 /オフィスアワー: 17:00-18:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 分子生物学とは、生命現象を分子の言葉で記述する学問である。ノーベル生理学・医学賞や化学賞はそこで生まれた数々の発見のうち歴史的転機となったものに与えられて来た。この授業では、その受賞記念講演(本年度はES細胞を用いた遺伝子改変動物と再生医療について)を題材にしてステップバイステップで分子生物学への理解を深めてもらうことを目標とする。 もう一つのねらいは受験英語からの脱却である。講演のトランスクリプト、及び自習課題の英文和訳の作成を通して、逐語訳ではなく、自らの持つ日本語で訳出出来るようにする。 授業方法: ノーベル賞記念財団が提供している2007年度の受賞講演のビデオ、講演で用いられたスライド原稿、ビデオから作成したトランスクリプトを用いながら講演内容、および基礎知識の解説を行う。 授業到達目標: 基本的な分子生物学の概念、用語を説明できる。 英文を自らの言葉で訳出することが出来る。 歴史的講演に直に触れてそれを理解し、自らのものにする。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 万能細胞と呼ばれるES細胞について、ES細胞を用いた遺伝子改変動物と再生医療について、初歩的な内容から高度な内容までの講義を行う。 第01回 10月9日 オリエンテーション、 第02回 10月16日 基礎的背景、受賞講演 第03回 10月23日 受賞講演 第04回 10月30日 自習(課題英文の訳出) 第05回 11月6日 受賞講演 第06回 11月13日 受賞講演 第07回 11月27日 受賞講演 第08回 12月4日 受賞講演 第09回 12月11日 自習(課題英文の訳出) 第10回 12月18日 受賞講演 第11回 12月25日 受賞講演 第12回 1月8日 受賞講演 第13回 1月15日 受賞講演 第14回 1月22日 受賞講演 第15回 1月29日 まとめ			
キーワード	科学英語講演、分子生物学、医学		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、必要に応じて授業計画に沿ったプリント資料を配付する。英和辞典等(電子辞書可)の持参は必要である。 参考 http://nobelprize.org/		
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況(40%)、課題英文の和訳(20%)、講演の聞き取り(20%)、及び基礎知識についての理解力(20%)をもとに総合的に判断する。		
受講要件(履修条件)	全学部、ただし、中学で習う生物程度の知識を有すること。履修届出前の授業の見学において授業中の途中退席はしないこと。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	分子生物学入門、応用		
備考(準備学習等)			